

平成30年度行政事業レビューシート ( 内閣府 )

<b>事業名</b>	地方創生拠点整備交付金			<b>担当部局庁</b>	地方創生推進事務局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成28年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	平成30年度	<b>担当課室</b>	地方創生推進事務局		参事官：島田 勝則 参事官：原田 一寿		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	地域再生法第5条4項1号・第13条			<b>関係する計画、通知等</b>	未来への投資を実現する経済対策 まち・ひと・しごと創生総合戦略(2017改訂版)				
<b>主要政策・施策</b>	地方創生			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	地方公共団体が進めている地方版総合戦略に基づく自主的・主体的な地域拠点づくりなどの事業について、地方の事情を尊重しながら施設整備等の取組を進めるため、本格的な事業展開の段階を迎えた地方創生について、地方公共団体での先導的な取組を着実かつ強力に推進する。								
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	地方公共団体が作成し、認定を受けた地域再生計画に基づいて実施される施設整備事業等に要する費用のうち、当該地方公共団体が負担する経費に充てるため、交付金を交付する。なお、本交付金による施設整備等が、単なる「ハコモノ行政」ではなく、地方版総合戦略に基づく取組として先導的なものとなるよう、運営戦略や事業計画に基づき、利活用方針が明確にされ、それにより十分な地方創生への波及効果の発現を期待できるものを対象とする。								
<b>実施方法</b>	交付								
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>	予算の状況	当初予算	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求		
		補正予算	-	86,980	60,000	-			
		前年度から繰越し	-	-	86,645	62,853			
		翌年度へ繰越し	-	▲ 86,645	▲ 62,853	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	0	335	83,792	62,853	0		
	執行額	0	37	57,147					
	執行率(%)	-	11%	68%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	-	0%	95%						
<b>平成30・31年度予算内訳(単位:百万円)</b>	歳出予算目	30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由					
	-	-	-						
	計	-	-						
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 30 年度
	交付金対象事業について、地方公共団体においてKPIを設定する。	KPIを設定した事業数/交付金対象事業数	成果実績	%	-	100	100	-	-
			目標値	%	-	100	100	-	100
			達成度	%	-	100	100	-	-
<b>根拠として用いた統計・データ名(出典)</b>	本交付金の支援対象事業の実施計画書に基づいて内閣府地方創生推進事務局が調査								
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 30 年度
	交付対象事業を効果的に実施してKPIを達成することにより、地方版総合戦略に基づいた地方創生の取組の更なる深化を目指す。	事前に設定したKPIを達成した事業数/交付金対象事業数	成果実績	%	-	-	-	-	-
			目標値	%	-	77	77	-	77
			達成度	%	-	-	-	-	-
<b>根拠として用いた統計・データ名(出典)</b>	本交付金の支援対象事業の実施計画書に基づいて内閣府地方創生推進事務局が調査								
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載</b>							チェック		
<b>活動指標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動指標		単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込	
	国から地方公共団体へ交付金を支出した数	活動実績	団体	-	1	704	-	-	
		当初見込み	団体	-	1,788	1,788	1,788	-	
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠		単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込		
	執行額(X)/ 国から地方公共団体へ交付金を支出した数(Y)	単位当たり コスト	百万円	-	37	81.2	35.2		
		計算式	百万円/団体	-	37百万円/1団体	57,147百万円/704団体	62,853百万円/1,788団体		

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	少子高齢化に歯止めをかけ、地域の人口減少と地域経済の縮小を克服し、将来にわたって成長力を確保することを目的とした地方創生に貢献するためのものであり、国民や社会のニーズを的確に反映している。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本交付金は、各地方公共団体の総合戦略に位置付けられた事業のうち先導的なものを安定的かつ継続的に支援することで、地方創生をの更なる深化を目指すものであり、国が実施すべきものである。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本交付金は、各地方公共団体の総合戦略に位置付けられた事業のうち先導性の高いものであり、国が実施すべき必要な事業で優先度の高いものである。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	地方公共団体に対して交付を行っているものであり、妥当である。	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無		
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	地方公共団体において適正に判断、実施されるものである。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	KPIに基づく単位当たりコストを審査項目に盛り込んでおり、本交付金の支援対象事業の選定に当たり、単位当たりコストの水準についても審査することとしている。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	本交付金の支援対象事業の選定に当たり、事業スキームの合理性・妥当性についても審査することとしている。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	本交付金では、事業目的に直接関係のない経費(例:施設や設備の整備、備品購入自体を主目的とする事業に要する経費)を対象外経費として、審査の際に支援対象事業から除外することとしている。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	地方公共団体が計画の策定にあたり、事業の確定等の調整のために不測の日数を要し、計画を再検討した結果、交付対象事業の完了が平成31年3月下旬になること等のためであり、妥当である。		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	本交付金の支援対象事業の選定に向けた審査において、コスト削減や効率化に向けた工夫について評価することとしている。		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	地方公共団体において適正に判断、実施されるものである。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	地方公共団体において適正に判断、実施されるものである。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	△	地方公共団体において適正に判断、実施されるものである。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	地方公共団体において適正に判断、実施されるものである。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-	
	所管府省名	事業番号		事業名
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方版総合戦略に基づく各地方公共団体の取組のうち先導性の高いものについて、安定的かつ継続的に支援することにより地方創生の更なる深化を図ることとしており、引き続き地方公共団体へ支援を行っていく。</li> <li>・本交付金の支援対象事業の選定に当たっては、知見を有する外部有識者や関係各府省の参画を得ることにあり、内閣府の事務局において複数・複層による審査を行っており、他の国庫補助制度との重複が発生しないよう個別にチェックしている。</li> </ul>		
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業終了後に各地方公共団体において実施される効果検証が適切に実施されるよう、国において、地方公共団体による効果検証結果をとりまとめ、内容を分析して公表する。併せて、取りまとめた効果検証結果について、本交付金に係る地方公共団体からの個別相談や全国説明会等の際に活用し、優良事例の横展開等を推進する。</li> <li>・本交付金の利用実績のない地方公共団体や、そうした地方公共団体の多い地域において積極的にアウトリーチ支援を行うことにより、本交付金の利用促進を図り、地方創生の裾野の拡大を目指す。</li> </ul>		

外部有識者の所見

点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

改善の内容 交付金事業の効果測定や検証を行い、適切な交付金活用のための事業の進捗状況の把握やフォローアップに努め、予算の効率的執行及び概算要求へ適切に反映させるべき。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

通現 見を踏まえ、事業の進捗状況の把握やフォローアップに努めて参りたい。  
り状

備考

平成29年度行政事業レビュー公開プロセス(0030) 地方創生推進交付金  
(0031) 地方創生拠点整備交付金  
(0136) 交付金効果検証事業に必要な経費

【評価結果】事業全体の抜本的な改善

【取りまとめコメント】地方公共団体が行うKPIの設定や効果検証の方法について、国が明確に示すことが、事業を適切に推進する上で必要である。国は、これまでの経験を踏まえ、PDCAサイクルを有効に機能させる観点から、地方公共団体の対応能力を勘案しつつ、本事業の執行の仕組みについて、抜本的な見直しを急ぐべきである。

【対応】これまでの経験及び効果検証事業の結果を踏まえ、PDCAサイクルを有効に機能させる観点から、地方公共団体の対応能力を勘案しつつ、交付金事業の執行を行うこととしたい。

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度 -	平成23年度 -	平成24年度 -	平成25年度 -
平成26年度 -	平成27年度 -	平成28年度 -	
平成29年度 内閣府 ( 0031 )			

※平成29年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

【平成29年度イメージ】

内閣府  
57,147百万円

〔 予算一括計上、実施計画審査、移替配分計画作成 〕

【交付】

A. 地方公共団体  
57,147百万円

〔 実施計画作成、実施計画に基づき事業実施 〕

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

